

アートギャラリー

白 磁

= 顔真卿 =

石 田 成 昭



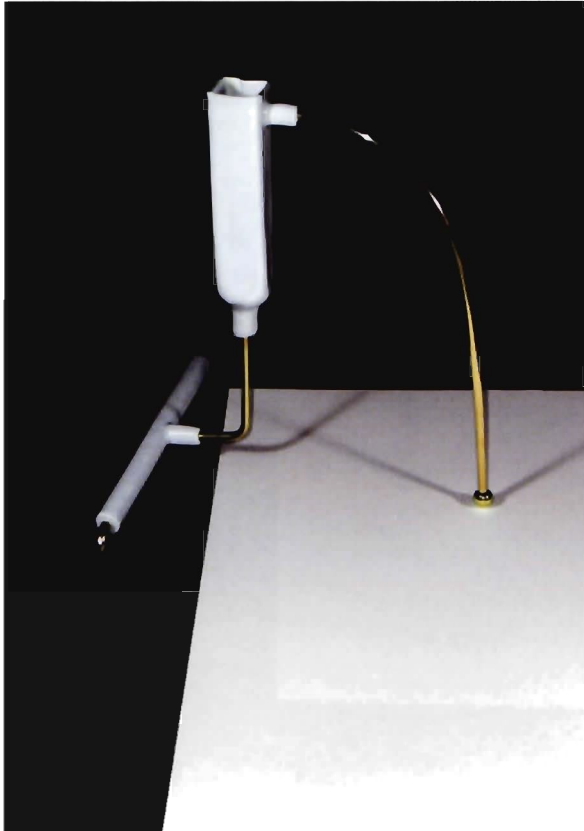
奈野 3 1 5

高 10cm

一 顔真卿

アーモンド型の青い目と細く長い首を持ったモディリアーニにすっかり魅了され、高校時代に私の描く人物画は尽くモディリアーニ風であった。恥ずかしい程の惚れ込み様だった。

中学1年の音楽鑑賞の時間に聞いたシューマンの“子供の情景”も強く心に残った。トロイメライのゆったりとした単純な旋律は哀愁が漂い甘美な夢の世界へと誘う。いつ聞いても豊かな満たされた気分になる。普遍的という言葉はこの曲の為にあるのではと思う。

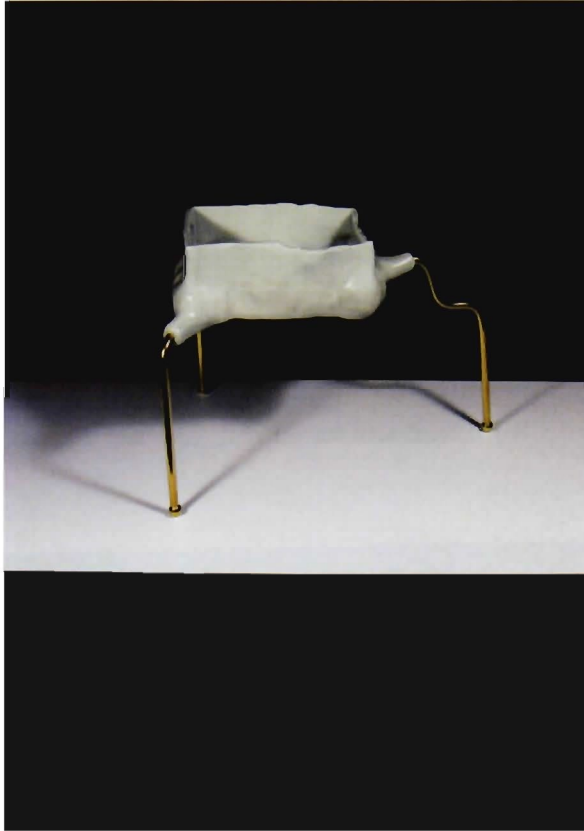


奈野 3 1 6

高 27cm

芸術の世界に身を置いて久しいが、そもそもこの世ではじめて出会った芸術家はだれだったの
だろう。

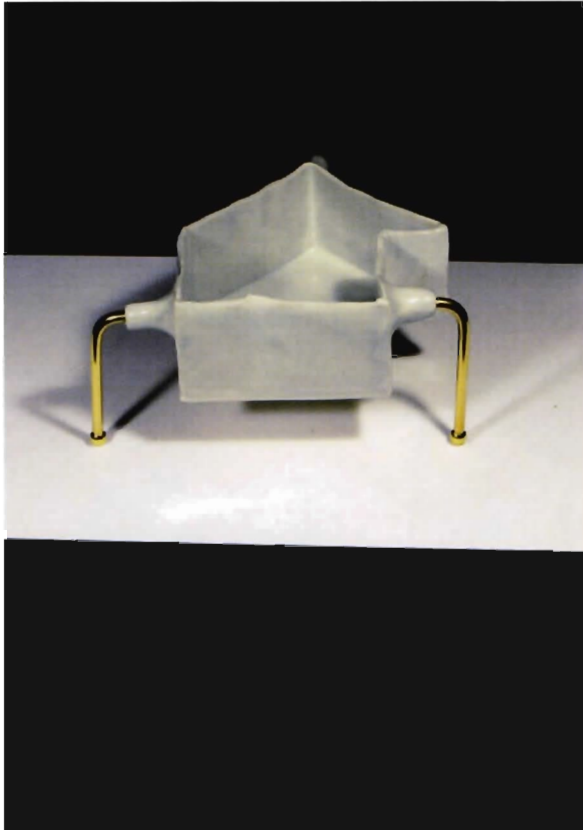
小学校へ上がると同時に書道教室へ通いはじめた。厳しい先生ではあったが、仄かな墨の香の
漂う授業は楽しかった。楷書の次は行書と渡された手本を見て“をー”と声をあげた。それは顔
真卿。力強い筆法は、品格のある凛とした姿を作り出していた。その後すっかりその事を忘れて
いたが、40年後、今から10年程前、たまたま見ているNHKの“中国4000年の美”というテレ



奈野 3 1 7

高 19cm

ビ番組である顔真卿が登場した。安史の乱で義軍をあげ唐朝のために戦った事、後世に残る程の忠臣であった事、又手本の字が書簡の中の小さな文字であった事等、大いに驚いた。と同時に長年頭の片隅にあった謎がふと解けた様に思えた。顔は忠の人という。子供心にすごいと感じたのは、書から滲み出る深い忠、即ち深いまこと、深いまごころに触れ感動したのだろう。最近身近で忠の字を見かけることはめったにないが、芸術の本質は忠である。モディリアーニもシューマンも忠の人ナリ。



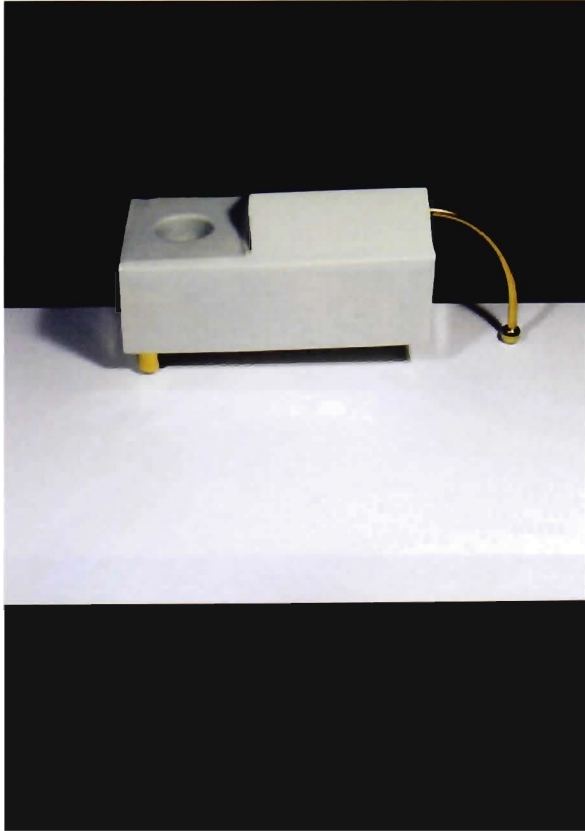
奈野 320

高 11cm



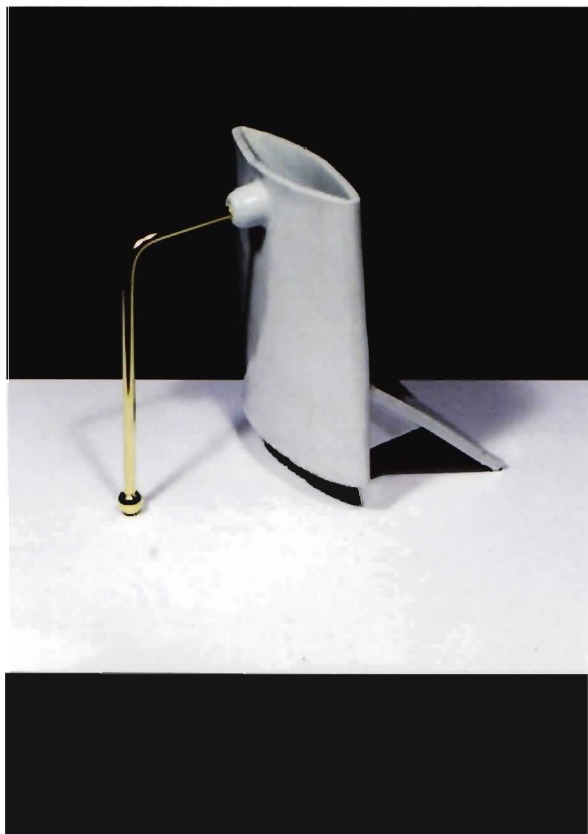
奈野 3 2 2

高 15cm



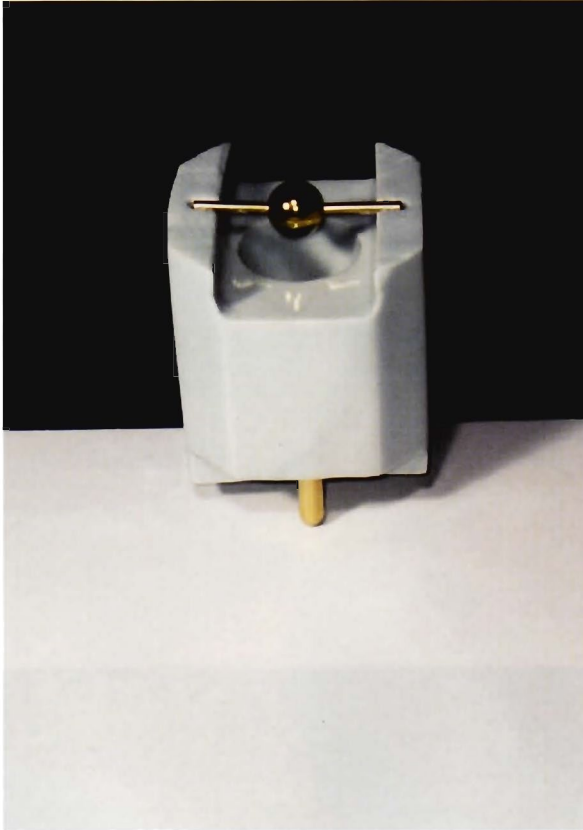
奈野 3 1 8

高 11cm



奈野 3 1 9

高 17cm



奈野 3 2 1

高 12cm